



生徒会本部の生徒が施設を訪れ、目録を贈呈

# 教育活動に役立てて

## ライフイベント 収益金活用 中学校に備品寄贈

「復興委員会の花」

昨年11月に糸魚川市民会館で開かれた音楽イベント「復興の花」糸魚川大規模火災復興支援ライブ2023」の実行委員会は、イベントの収益金を使い、市内の4中学校へ音楽機材などの学校備品を贈った。

22日に市役所教育長室で贈呈式が行われ、4校の校長がそろって出席。実行委員長の稲田千佳さん(23、同市在住)が「これからの糸魚川を担う若者のた

めに使っていただけから目録を手渡した。同イベントは糸魚川市駅北大火の復興支援として平成29年から始まり、若手アーティストらが集い、音楽を通じてまちを元気にしようとして続けている。昨年はチケットが完売。経費を除いた収益133万2834円のうち、約100万円を学校備品の購入費に充てた。各校の希望により、ジャケットヒーター(能生中)、ミラーレス一

大島区の大島中(佐崎次朗校長)の生徒会は22日、同区天平の特別養護老人ホームほくら園に車椅子1台を寄贈した。3月での閉校を前に地域への感謝を込めた。

車椅子の購入費用は生徒会予算の繰越残金や、同校の緑の少年団活動で取り組んだアル

ミニ回収の収益から贈った。同日に生徒会本部の生徒5人が同施設を訪れ、目録を贈呈。車椅子は後日納入される。

同校は職場体験事業や、かつてあったボラティアクラブでの活動などで同施設と交流があった。内山裕施設長は感謝を述べ、「こ

れからも大島区の住民として関わりを持って」とあいさつ。吉野陽向半島地震の被災地支援

## 青海小・きずなプロジェクト

### アルミ缶回収の成果発表

へ贈 寄附品 一用品 小護 特介

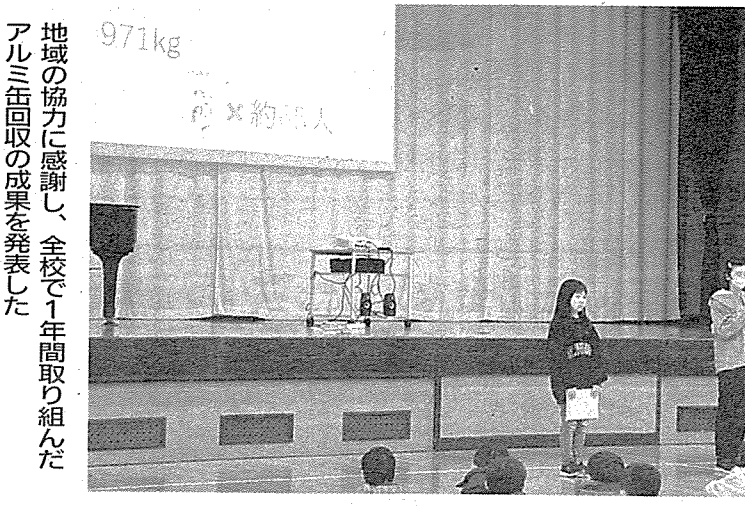
糸魚川市立青海小(小野聡校長、児童101人)は21日、全校で1年間取り組んだ「きずなプロジェクト」の感謝の会を開き、アルミ缶回収の成果を発表した。収益金を活用して同市寺地の特別養護老人ホームふくがくちの里伊奈苑施設長へ介護用クッションと車椅子ケアシートを贈った。

有効に使わせていただきます」と感謝した。エコ・ボランティア委員会委員長の6年、長谷川穂波さんは「みんなでまとまって楽しく活動ができて良かったです。来年も続けて、いい学校にしてほしい」と話した。



「復興の花」実行委員会から糸魚川市内の4中学校へ学校備品を寄贈。実行委員長の稲田千佳さん(前列中央)と肅本教育長(同左)、各校長が出席して贈呈式が行われた(糸魚川市役所内)

同プロジェクトは3年目。児童が校区の各家庭を訪ね、アルミ缶回収を通じて社会性や思いやりの心を育む。同日の会で各学年の代表児童が「頑張ってきたことに誇りを持って、地域の役に立つことができたい」と話した。これからは「地域の人があいきつや話すことができたい。これからもコミュニケーションを大事にしたい」と発表した。



地域の協力に感謝し、全校で1年間取り組んだアルミ缶回収の成果を発表した